

3rd IEEE Region 10 Student Congress

学会報告書

慶応義塾大学 Student Branch 石井 大介

開催場所 : Beijing, P.R.China

開催期間 : 2006年7月14日~17日

1. 会議概要

IEEE(The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.)はアメリカに本部を置く、世界最大の電気・電子関係の技術者組織(非営利団体)である。IEEE は世界各地での地域活動を行うに当たり、世界を 10 の地域(Region 1~10)に分けている(図 1 参照)。なかでも Region 10(以下 R10)は、広大な海や高山、長い境界線で各国が分かれており、また文化、宗教、政治、経済の面でも多様性のある地域であり、IEEE の学生が直接意見交換をする場を持つのは難しい。そこで、R10 の IEEE の学生が交流を深め、意見交換を行うために開催される会議がこの IEEE R10 Student Congress(以下 IEEE R10SC)である。今回は 3 回目の IEEE R10SC であり、1 回目は 2002 年にシンガポールで、2 回目は 2004 年に香港で開催された。



Region Map (会員数は 2005 年 12 月 31 日時点)

今回の IEEE R10SC は "Shared beyond boundaries!" をスローガンに、中国の北京で開催され、中国、韓国、台湾、インド、バングラディッシュ、マカオ、マレーシア、ニュージーランド、パキスタン、シンガポール、タイ、オーストラリア、日本の 13 カ国から 72 大学、約 100 人の学生が参加した。

2. 会議内容

今回の IEEE R10SC は北京郵電大学(BUPT: Beijing University of Posts and Telecommunications)、北京交通大学(BJTU: Beijing Jiaotong University)、北京大学(PKU: Peking University)、北京清華大学(THU: Tsinghua University)の 4 大学がホスト校となり、1 日毎に会場となる大学を変えて、講演やディスカッションなどが行われた。以下に 4 日間の主な内容を記す。

【14 日: 1st Day 北京郵電大学(BUPT)】

<午前>

• Opening Speech

- (1) Seiichi Takeuchi, R10 Director, Tokyo Denki University
- (2) BUPT President

各日、最初は大学の方や IEEE の VIP の方からの挨拶があった。北京郵電大学に限らず各大学で学長・副学長からの挨拶があり、R10SC の位置付けの高さを感じた。

• Special Lecture

- (1) IEEE President Michael Lightner
- (2) "Student Activities" by Jim Reiss, SAC Vice Chair
- (3) "What is GOLD?" by Darrel Chong, Yasuharu Ohgoe, GOLD R10 Chair and GOLD RAB Vice Chair

IEEE President からによるプレゼンや IEEE, R10 の現状に関する発表が行われた。今回は、Student Branch の学生だけではなく、GOLD(Graduate of the Last Decade)という卒業した IEEE メンバーの Committee の会議も兼ねていて GOLD R10 Chair から GOLD Committee の紹介発表もあった。また、途中ディスカッションタイムもあり、IEEE の会員を増やすにはどうしたらいいかといった内容に関して話し合った。



IEEE President

<午後>

- Special Lecture
 - (1) “On IEEE Technical Activities?” by Celia Desmond, VP Tech.Activities
 - (2) “On RAB and Its Activities” by RAB MD Celcelia Jankowski
 - (3) “Ethics Competition and the IEEE TV” by Past RAB Chair Marc Apter

IEEE の活動や IEEE で行っているサービス (IEEE Xplore, myIEEE, IEEE.tv,)に関する講演が行われた。私も講演を聞いて初めて知ったが、マイページを提供する myIEEE やコンテンツプログラムが視聴できる IEEE.tv といったサービスがあるので、興味のある方は是非。



C.Jankowski によるサービスの説明



VIP の方々

- Special Presentation: “Woman In Engineering (WIE) and Transition to GOLD” by Mini S. Thomas, Chair, WIE Affinity Group, Delhi, Secretary & SAC Chair, Delhi Section

インドでの WIE の活動報告。女性会員による活動というよりもインドにおける Student Branch の活発な活動が印象に残った。途中、クイズゲームも採り入れていて面白い発表だった。また、大学や大学院を卒業した後、IEEE 会員を続ける (Student から GOLD になる) 上で何が問題になって、それらの問題をどのように解決すればいいかといった話題に関してディスカッションを行った。



Mini S.Thomas

<夜>

- Formal Dinner and Awards Presentations

一日目の夜はレセプションが行われた。たくさんの中華料理が出てきて、とても食べることではできなかった。また、アクティビティの高い Student Branch に対する表彰なども行われた。賞の詳細について正直把握できなかったが、インドの人達がいくつも賞をもらっていて、インドのアクティビティの高さを示すものとなっていた。その後、楽器演奏、歌、カンフーのショーも行われた。



料理



表彰の様子



演奏



功夫！

【15日：2nd Day北京交通大学(BJTU)】

<午前>

- Welcome Speech
 - (1) Prof & Dr. Li, Vice President of BJTU
 - (2) James Riess, SAC Vice Chair
- Special Presentation
 - (1) “Students Leadership Training Workshop” by Cecilia Jankowski, RAB MD
 - (2) “Project Management” by Celia Desmond, Vice Present Tech. Activities
 - (3) “Students Ethics Competition” by Marc Apter, RAM Chair
 - (4) “IBSC and Students Membership Benefits” by TW Liu
 - (5) “Organizing a Vibrant Student Branch” by Marzuki Kahild, R10 SAC Chair
 - (6) “Presentation by LK Wilson 2005 Award winner” by Megha Joshi, an India Delegate
 - (7) Presentation by Outstanding R10 SB 2005 and “Pen Pal Club” Organizer by Mohit Malhan, Xing Jin & Divesh Dhawan

IEEE Student Branch の意義や可能な活動内容，賞を受賞したインドの Student Branch の活動報告，IEEE R10 のペンパルクラブに関する講演が行われた．インドは頻繁に会合を行ったり，講演会や企業見学を実施したりしており，勢いを感じた．ペンパルクラブの紹介では，様々な映画を扱った紹介ビデオを作成して，ユニークな発表をしていた．



Student Branch に関する説明



R10 ペンパルクラブの紹介

<午後>

・ Industry Visit

この日の午後は Industry Visit と称して，北京経済技術開発地区(BDA : Beijing Economi-technological Development Area)の見学へ行った．最初に地区開発の模型を展示してある施設へ行き，地区開発計画について説明を受けた．その後，北京南海子麋鹿苑博物館という博物館へ行き，BDA に関する説明を受けた．40ヶ国，1900社を集めるという壮大な計画を予定しているとのことだった．博物館の周りは自然公園になっており，鹿や白鳥，カモなどを見学した．まだ開発予定地区は古い町並みや何も無い土地が広がっており，本当に説明を受けたような産業地区になるのだろうかと少し心配してしまうほどだった．



BDA の模型



北京五輪のマスコット



鹿



カモ

<夜>

・ Culture night

夜は，Culture Night と称して，中国の学生による楽器演奏・歌・カンフーのショーや参加者の中から何人かが自国の国歌，好きな歌，踊りなどを披露した．最後はみんなでダンスをして盛り上がった．ダンスタイムでは，みんなお酒も飲んでいないのにノリがよくて，すごく盛り上がった．私も汗だくになりながら，踊って楽しい時間を過ごした．



Let's dance!

【16日：3rd Day 北京大学(PKU)】

<午前>

・ Speech

- (1) Guo Ying, President of EECS PKU
- (2) Seiichi Takeuchi, R10 Director, Tokyo Denki University
- (3) Haige Xiang, Director of Academic Committee
- (4) Marc T. Apter, 2004 ~ 2005 Chair

・ Workshop

宿泊している大学によってグループを4つに分け，グループ毎に違ったテーマ（私のグループだったら「Student Branch が自身のホームページをコンスタントに更新するためにはどのようにすべきか」といった感じ）で，グループディスカッションを行った．その後，各グループから一人代表者が発表を行った．



ディスカッションテーマ



私のグループは名大の多賀谷さんが発表

- PKU Orienteering Association (POA)
PKU のキャンパス内でオリエンテーリングを行った。参加者とボランティアの学生を5人~7人ぐらいのチームに分け、40分間で約750m×500mの敷地内を探索し、発見したポスト数とタイムを競う。一生懸命駆け回ったものの、残念ながら私のチームは下位の方だった。同じチームの人とは交流を深めることもできて、疲れたが大変面白かった。



POAの様子



私のチーム

<午後>

- Visit Summer Palace
午後は Summer Palace を観光した。Summer Palace は中国で最大規模を誇る皇室庭園であり、万寿山という小高い山とその南側に広がる昆明湖という人工湖で構成されている。1998年、世界遺産に登録された。西太后が息子の光緒帝を死ぬまで幽閉した部屋や西太后の住まいなど見学した。万寿山に建つ仏香閣は現在改装工事中で入ることができなかったのは残念だったが、昆明湖でボートに乗って楽しんだ。午前中オリエンテーリングをしたこともあって、万寿山を登るのは少し大変で、他の参加者も苦しそうだった。とにかく広い庭園で中国のスケールの大きさを感じた。



ボート上から見た万寿山

【17日：4th Day北京清華大学(THU)】

<午前>

- Introduction to Tsinghua by Li Dan
- Introduction to Tsinghua Student Branch by Zhou Sheng
- Visiting the campus of Tsinghua
北京清華大学のキャンパス内を見学した。広大なキャンパスであり、ほんの一部しか回ることができなかったが、Main Building や Big Hall, Original Gate, 図書館などを見て回った。数多くの子供達も見学に着いて、大学というよりも一つの観光地のような感じだった。



Big Hall



Original Gate

<午後>

- Plenary Speech
 - (1) Prof. Gong Ke, Vice President of Tsinghua
 - (2) James N. Riess, Vice Chair of Student Activities, IEEE Regional Activities Board
 - (3) Marc T. Apter, 2004-2005 RAB chair
- Free talk and announcement
各国から1~3名ほどの人が、自分の国に関する発表や自分の大学の Student Branch の活動の発表を行った。日本からは東京工業大学の Sun Dawei さんが発表した。どの大学も活発な活動を行っており、IEEE Student Branch に対する意識の高さが伺えた。慶應義塾大学の Student Branch は表立った活動をしていないので、見習わないといけないところが多かった。



Free talkの様子

- Visiting Tian'anmen Square
天安門広場を見学．南北 880m，東西 500m の世界最大の広場というだけあって，とても広かった．
天安門を抜けた庭園の中では，兵隊達が訓練をしていたり，天安門前の国旗後納の儀式を行ったりしており，途中儀式のために通行止めになって他の人たちとはぐれてしまうというハプニングも．毛沢東がいかにか中国の人々にとって偉大であったかを感じとれた．



天安門広場



記念写真

3. 感想

最初どのような雰囲気になるのか不安なところもあったが，単純に他国の人達，国内の他大学の人達と交流することができて面白かった．講義やディスカッションも硬いものではなかったし，みんなノリがよくて感じのいい人達ばかりだった．もう少し英語ができればもっと楽しめたと思う．また，今回の会議は，ホスト校の Student Branch の人達の努力はもちろんのこと，参加者の案内役としてボランティアの方が多数参加してくれたことで成り立っている部分が大きく，今の日本では真似できないなと感じた．

人数に限りがあるものの希望すれば参加できる会議であるので，アジアの人たちと話したい，飲みたい，遊びたい人や海外に行ってみたい人は次回の 2008 年の R10SC に参加することをお薦めする．

最後に今回このような機会を与えてくださった IEEE Japan Council の皆様，慶應義塾大学 IEEE Student Branch カウンセラーの笹瀬先生，また R10SC への参加を認めてくださった山中先生をはじめとする山中研究室の皆様感謝いたします．

以上